



Asia Road Racing Championship 2022

RACE REPORT

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



■SDG Media Infomation

FIM アジアロードレース選手権 第3戦 日本ラウンド

宮城県・スポーツランド SUGO (1周=3.6211km)

2022年8月13日(土) 公式予選・レース1

2022年8月14日(日) レース2

ASB1000 クラス SDG Motor Sports HARC-PRO. Ph. #73

ライダー：埜口 遥希

マシン：Honda CBR1000RR-R タイヤ：DUNLOP

予選：P.P. (タイム：1分28秒369)

レース1：優勝

レース2：優勝

- 1 Motegi
- 2 Suzuka
- 3 Autopolis
- 4 Sugo
- 5 Tsukuba
- ★ Suzuka 8H
- ★ ARRC R3
- 6 Autopolis
- 7 Okayama
- 8 Suzuka



SDG 埜口遥希がダブルウィンで3連勝！ポイントリーダーに踊り出る！！



ASB1000 #73 Haruki Noguchi

鈴鹿8耐の翌週となる8月12日(金)～14日(日)アジアロードレース選手権(ARRC)第3戦日本ラウンドが宮城県・スポーツランドSUGOで開催された。2022年シーズン、最高峰クラスであるASB1000にSDG Motor Sports HARC-PRO. Ph. からフルエントリーしている埜口遥希が大活躍を見せた。

6月に同じくスポーツランドSUGOで開催された全日本ロードレース選手権第4戦ST1000クラスに、ARRCを見据えてスポット参戦した埜口は、トップ争いを繰り広げ惜しくも優勝は逃すものの2位と、その存在感をアピールした。

その後に行われたARRC第2戦マレーシア・セパンでは、レース2で見事初優勝を果たし、今回の日本ラウンドも期待が高まる中で迎えていた。



ASB1000 #73 Haruki Noguchi

金曜日のフリー走行では、全日本で取ったデータを生かしつつ走り出すが、1本目ではマシンに問題が発生し、あまり走れずに終わっていたが、2本目、3本目とタイムを縮め、初日をトップタイムで終えていた。

台風8号の接近で天候が心配されたが、土曜日はドライコンディションでセッションは進んでいった。公式予選では、まずは決勝を見据えてレース用タイヤで出ていき、マシンの状態を確認。セッション終盤の予選タイヤでのアタック合戦に備える。そしてタイムを出している埜口のことをマークするライダーも多かったが、そこをうまく回避。少し早めのタイミングでコースに出て行くと1分28秒369をたたき出しリーダーボードのトップに立つ。この埜口のタイムを上回る者は現れず、見事ポールポジションを獲得する。



その後、AP250クラスのレース前に雨が降ってくるものの、すぐに止み。SS600クラスのレースは、ほぼドライ。ASB1000クラスのレース1もドライコンディションとなった。

埜口は、好スタートを切りホールショットを奪うとレースをリードするが、3周目のシケインで多重クラッシュが発生したため赤旗中断。さらにリスタート

の際に、オーバーヒートでストップしたマシンがあり、再びディレイとなり、10周で争われることになる。2度目のスタートもうまく決めた埜口は、そのままレースをリード。2位争いが熾烈になったことで、埜口は、さらにリードを広げトップを独走。そのままポールtoフィニッシュで優勝を飾った。

レース2に向けては、チームと話し合い違うセットで臨むことを決めるが、これが結果的に、いい方向に行かなかった。



18周で争われたレース2。ここでもスタートを決めた埜口は、ホールショットを奪うとレースをリードしていく。トップを走りながらも、今ひとつフィーリングが悪くペースが上がらない。レース1のように独走態勢には持ち込めず、そのテールには、カスマ・ダニエル・カスマユディン選手が迫り一騎打ちのトップ争いとなっていく。7周目の馬の背コーナーでは、インに入られるもののクロスラインで抑えるが、8周目の同じく馬の背コーナーでかわされ2番手に降順。



ASB1000 #73 Haruki Noguchi

そのままレースは、終盤に入っていく。カスマ選手のテールをマークするが、勝負どころをうまく抑えてくる。最終ラップに入っても、1コーナー、そして馬の背コーナーを抑えられ、残るはシケインへのブレーキングだった。ここで埜口はインに入り込み、コンパクトなラインでシケインを切り返すとアクセルをワイドオープン。10%勾配のホームストレートを立ち上がっていきトップでチェッカー。ダブルウインを達成し、3連勝を飾った。



ASB1000 #73 Haruki Noguchi

日本ラウンドを終え埜口は暫定ポイントリーダーとなった。残り2戦4レースでシリーズチャンピオンを狙っていく。



■埜口遥希コメント

「レース1では独走で優勝できましたが、厳しい展開となったレース2ではうまく最後に抜くことができず良かったです。頑張っていればチームの皆さんもしっかり見てくれているので、目に見えてサポートを強化してくれています。今回もチームのおかげで勝つことはできました。次戦のセパンは、好きなトラックですし、おもしろいところなので、しっかり自信をもって走ります。周りも、さらに速くなってくると思いますし、気を引き締めて臨みます。多くの応援ありがとうございました」



ASB1000 #73 Haruki Noguchi



ASB1000 #73 Haruki Noguchi